

「万博エコクラブ」夏休み自由研究 優秀作品の選考結果について

2005年9月19日

(財) 2005年日本国際博覧会協会

(財) 2005年日本国際博覧会協会は、愛・地球博の環境配慮により関心を持ってもらうことを目的として、ホームページに掲出した「万博エコクラブ」(平成17年4月9日既出)を活用した夏休みの自由研究を募集しました(7月28日既出)。地球温暖化問題、ごみ問題、ヒートアイランド現象等々、現代社会の大きな問題ともなっている大変難しい課題設定にもかかわらず、全国の小中学生60名からの応募がありました。この度、特に優れた作品の選考が終わりましたので、以下の通りお知らせします。

1. 選考結果(敬称略)

●中学生の部

- ・モリゾー賞(最優秀賞) 林 潤平(岐阜県坂祝町立坂祝中学校1年)
「潤平の打ち水大作戦2005」

- ・優秀賞

宗森 真織(兵庫県明石市立二見中学校2年)

「夏を涼しく過ごせる家の研究」

佐藤 優馬(愛知県安城市立東山中学校1年)

「自然・環境保護について少しでも環境にやさしいことを考える」

●小学校高学年の部

- ・キッコロ賞(最優秀賞) 高柳 佳織(横浜市立北山田小学校4年)
「地表面の温度のちがい」

- ・優秀賞 長沼 孝典(三重県桑名市立大成小学校5年)
「万博を測ろう」

森 公美くみ(愛知県扶桑町立柏森小学校4年)

「わけわけくん たん生日記」

廣部ひろべ あすか(滋賀県彦根市立稲枝東小学校5年)

「緑のカーテンの効果」

●小学校低学年の部

- ・キッコロ賞(最優秀賞) 村瀬 正紘(愛知教育大学附属名古屋小学校1年)
「ぼくのぼんぱくエコグリーンマップ」

- ・優秀賞

船木 敬真たかまさ(神奈川県相模原市立当麻田小学校2年)

「いえでどのくらいのりょうのゴミが出ているかしらべてみよう」

谷垣 里咲^{りき}（兵庫県篠山市立城北小学校1年）

「いえでどれだけのごみがでているか はかってみよう」

2. 表彰式

モリゾー賞、キッコロ賞受賞者の表彰式を以下の要領で行う予定です。

- ・日時：平成17年9月23日（金） 13：40～14：00
- ・場所：メディアセンター共同記者会見室
- ・出席（予定） 中村事務総長ほか
各部のモリゾー賞、キッコロ賞受賞者（計3名）

3. 審査委員のコメント

九州大学大学院人間環境学研究院 都市・建築学部門 高口洋人助教授

「ユニークでレベルの高い研究が多く、選ぶのに困りました。身近な物を工夫するのが研究の第一歩です。これからも頑張ってください。」

工学院大学工学部建築都市デザイン学科 中島祐輔専任講師

「小中学生らしい手作り感の上に、研究へのパワーと大人顔負けの緻密な分析が加わっている作品が多く見られたことに驚いています。これをきっかけに、これからの環境を創る担い手の中心になってくれることを期待しています。」

(財) 2005年日本国際博覧会協会 原田鎮郎チーフプロデューサー

「小学生、中学生から寄せられた約60点の作品を拝見した第一印象は非常にバラエティに富んでいるという点であった。ごみ問題、ヒートアイランド問題、水問題などさまざまな課題が展開され環境のすそ野の広さを再認識するものであった。またそれぞれのテーマに対する取り組み方やレポートのまとめかたも個性的で興味深かった。プレゼンテーションのテクニックもコンピュータを高度に駆使した作品から素朴な作品まで色とりどりであった。われわれはプレゼンテーションのテクニックもさることながら、研究に取り組む姿勢、工夫、個性、粘り強さなどを重視して判断したつもりである。優秀作品はいずれもわれわれの期待に十分こたえうるものであった。私の関係する建築設計の分野では大阪万博を見て建築家になろうと決めたという仲間が何人もいる。今回参加してくれた学生諸君がこの研究をきっかけに今後新たな可能性を拓いていってくれたらと願わずにはいられない。」

最優秀作品（モリゾー賞、キッコロ賞受賞作品）の概要・講評

1. 中学生の部最優秀賞（モリゾー賞）

林 潤平（岐阜県坂祝町立坂祝中学校1年）

「潤平の打ち水大作戦2005」

●概要・講評

打ち水の効果の測定に止まらず、その必要性の背後にあるヒートアイランド現象及びその大きな原因の一つである空調機の排熱問題にしっかりと着目した上で、打ち水の原理を応用し、しかも排熱対策に効果のある装置開発にまで短期間でいたっていることは、すべての審査委員の賞賛を得た。まさに「大作戦」の名にふさわしい内容。

2. 小学生高学年の部最優秀賞（キッコロ賞）

高柳 佳織（横浜市立北山田小学校4年）

「地表面の温度のちがい」

●概要・講評

状態（アスファルト、土、芝生、林内）の違う様々な地表面付近の温度測定を緻密に行い、しかも地表面の状態の違いや天候の違いによる微気候の形成過程がしっかりと考察できている。地表面から一定の高さで直射日光を当てずに各測点同条件で測定できる装置を手づくりしている点や4カ所もの測点をたった一人で、しかもこれだけの頻度でデータ収集を行い、立派な研究を完成させたその努力も賞賛に値する。

3. 小学生低学年の部最優秀賞（キッコロ賞）

村瀬 正紘（愛知教育大学附属名古屋小学校1年）

「ぼくのぼんぱくエコグリーンマップ」

●概要・講評

バリアフリー、生ごみのコンポスト化、無農薬農業、間伐材利用、パビリオンの環境配慮構造、海上の森の自然環境・・・実に様々な観点で会場内を観察し、両会場の「ぼんぱくエコグリーンマップ」をこの年齢で作りきった。しかも、めだかが棲める「かんきょう」の大切さをしっかりと力説。全審査委員や協会の担当職員たちも本当におどろきました。